

JASE

現代性教育 研究ジャーナル

2011 年

No. 5

2011年8月15日(毎月15日)発行

財団法人 日本性教育協会

THE JAPANESE
ASSOCIATION
FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info@jase.or.jp URL http://www.jase.or.jp 発行人 松本清一 編集人 本橋道昭
© JASE. 2011 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

第20回WAS国際会議報告 1
北丸雄二のニューヨークレポート④ 6
「ありのままのわたしを生きる」ために④ 7

今月のブックガイド 8
JASEインフォメーション 9

■第20回WAS国際会議報告

性の健康を保障する未来の鍛造 (Forging the Future of Improved Sexual Health for All)

大阪府立大学人間社会学部教授
WAS性の権利監視委員会 (Sexual Rights Watch Committee) 委員長

東 優子

■はじめに

性科学(セクソロジー)に関する世界最大の組織WAS(World Association for Sexual Health)の主催する国際会議が、2011年6月12～16日、スコットランド・グラスゴー市で開催された。第20回となる本大会のテーマはForging the Future of Improved Sexual Health for All(あらゆる人々の、よりよい性の健康を保障する未来を鍛造する)である。「鍛造」という言葉に、かつて造船業が盛んだったグラスゴーらしさを感じられる。

余談になるが、ある友人が「いくらウェールズ出身だって自己紹介しても、日本人にはイギリス人と呼ばれるんだよね」と苦笑するのを聞いたことがある。スコットランド、ウェールズ、北アイルランド、イングランドは、共に英国(UK)を構成する「国」である。独立国家ではないが、エディンバラを首都



1451年創立のグラスゴー大学:「国富論」で有名なアダム・スミスのほか、これまでにノーベル賞受賞者を6名も輩出した名門大学

とし、独立した法制度・教育制度・裁判制度をもつ。サッチャー、ブレア、ブラウンといった英国首相とは別に、スコットランド政府首相もいる。

隔年開催されるWAS国際会議の初回は、1978年のローマ大会に遡る。世界5大陸には、アジア・オ

セアニア (AOFS)・アフリカ (AFSHR)・ヨーロッパ (EFS)・南米 (FLASSES)・北米 (NAFSO) が組織されており、WAS 国際会議のない年には、地域別の国際会議が開催される。来年、島根県松江市で開催される第 12 回 AOCS (アジア・オセアニア性科学学会) がこれに相当する。

会員組織である WAS には、国内の日本性教育協会、日本性科学学会、日本思春期学会が団体登録している。このほか、WAS には個人会員として登録することもできる。

■ 参加者の輪郭

今回の参加人数は約 900 名で、前回のイエテボリ大会 (スウェーデン) が約 1,500 名だったことに比べると、やや寂しい印象は否めない。採算が取れないという理由で、3 日夜に予定されていたガラ・ディナー (祝宴) もキャンセルになった。各国の参加者との交流が醍醐味ともいえる国際会議で、こうした社交の場をなくすというのもどうかとは思いますが、今回の会議運営は私企業に全面委託されており、そこが決定したことである。

実は、国際会議を運営するためには数千万円が必要となり、赤字になることもある。そうしたリスクを回避するために、マネジメント会社が雇われており、そこが参加者データの分析もおこなう。以下は、開会式当日の朝 9 時から午後 6 時開始直前まで開催された、WAS 役員会議で報告された事前登録者データである。

国別では、英国 220 名、米国 89 名、スウェーデン 58 名、オーストラリア 55 名、イタリア 34 名、ノルウェー 34 名、カナダ 29 名、スペイン 27 名、オランダ 26 名、ハンガリー 25 名、と続く。日本から事前登録した人数は 18 名だった。

専門領域別には、臨床医 36%、学生 17%、看護師／ヘルスケア専門職者 14%、保健アドバイザー 9%、臨床研究者 8%、レジデント／研究員 7%、基礎科学研究者 7%、企業関係者 2%、となる。ここに性教育に携わる「教員」が挙がっていないのは、データを分析した会議運営会社が、そもそも項目として設定していなかったというお粗末な理由による。

一般演題で採択されたのは、口頭発表 29 本、ポスター発表 533 本 (内、101 本は演者によるナレーション付) である。領域別にみると、性医学 43%、ジェンダー 30%、産婦人科学 13%、エイジング 9%、となる。いかに性科学が学際的学問とはいえ、やはり「医学」が大半を占めていることがわかる。

ここで「エイジング」が目立つ。「高齢化とセクシュアリティ」は重要な研究テーマだが、この数字に反映されているのは、バイアグラの登場以降の、いささか偏ったトレンドである。すなわち、男性の性機能障害に関する臨床研究には製薬会社のスポンサーがつきやすく、臨床研究の本数が増えた。本大会では (ある程度の慣れたのか) さほど気にならなかったが、過去には、男性性機能学会と見紛うばかりに、領域バランスを欠く大会もあったほどである。

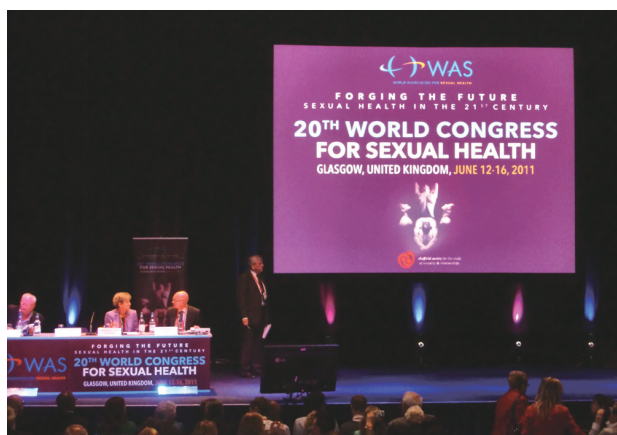
国際会議には興味がある人でも、言語の壁、参加費用の高さなどを理由に、参加できないという人は多い。世界的経済不況では企業からの寄付や政府助成金などもままならないが、今回もスカラシップ (奨学金) や「学生・看護職・教職の参加費 15,000 円」といった特別枠を設けるなどして、とくに「性の健康」が深刻な状況にある地域からの参加、若者、現場で地道な取り組みをしている人々の参加を促進したいというのが、WAS の願いである。

■ 開会式と「グラスゴー宣言」

午後 6 時からの開会式は、歓迎の祝辞や会長講演、特別講演、各賞の発表、エンターテイメントなど盛りだくさんの内容だった。英国人は几帳面な性格だと聞いていたので、時間厳守の司会進行を想像していたのだが、スコットランド人はどうもそうではないらしい。2 時間の予定を大幅に超過し、開会式直後のカクテル・パーティーが始まったのは午後 9 時半だった。

前半は、講演「英国 (UK) における性の健康事情」、スコットランド政府閣僚による祝辞、そして「グラスゴー宣言」という流れで、以下の本大会のミッション (一部抜粋、意識) が確認された。

- 性の健康の基盤が、性の権利 (これは本質的に人権問題である) にあることを確認する。
- ジェンダー、セクシュアリティ、性の健康に対す



開会式の様子:写真左から WAS 学術委員長アラン・ジアミ (仏)、WAS 会長ローズマリー・コーツ (豪)、グラスゴー大会長ケヴァン・ワイリー (英)

るアプローチが、ホリスティックかつ人権的になされることを維持する。

- 性の健康ニーズがもっとも高い人々に対して、効果的な介入が実践されるよう推進していく。
- 性の健康、性の権利、多様性の実現に向けて、個人的・職業的リーダーシップの強化を図る。
- 健康およびウェルビーイングをもたらす効果的介入についてのエビデンスを提供する。
- コラボレーション精神、チャレンジに対する敬意の表明、変化に対するオープンなマインドを大切に

「英国 (UK) における性の健康事情」を紹介したのは、国民保健サービス (NHS) 「性の健康に関する独立顧問委員会」の委員長である。NHS は、日本の厚生省 (労働問題は扱わない) に相当する。その内容は、開催国の抱える深刻な現状とそれに対する取り組みであり、本誌先月号 (2011 年 No4) の巻頭論文「10 代の妊娠のリスク・ファクター: イギリスの総合政策プロジェクト」とも一部重複するので、そちらもぜひ参照されたい。

講演内容もさることながら、個人的に印象的だったのは、演者および彼を紹介した「HIV と性の健康センター」所長の肩書である。日本の公的事業および公職で「性の健康」という文言が使われている例を私は知らない。実質的には似たような事業内容が展開されている場合でも、「エイズ対策」や「母子保健」、あるいは「生殖に関する健康 (リプロダクティブ・ヘルス)」といった文言が使われている。

WAS は 2005 年、それまでの「性科学」という看



WAS ゴールド・メダル (金賞) を受賞した池上千寿子氏を紹介したスライド (開会式にて)

板を下ろし、「性の健康」を掲げた現在の名称に変更した。その主な理由は、学会組織のミッション (使命) の顕示と、名称変更することによって期待される国際的・学際的ネットワークの拡大である。しかし、当然のことながら、名称変更に反対した人々もいたのであり、かくいう私もその一人だった。会長 (当時) らに「君には、世界の情勢が見えていない」と言われたことを思い出しつつ、「性の健康」を冠した肩書をもつ二人の講演を (内、ひとりの前職がソーシャルワーカーだったということもあって) 感慨深く拝聴した。

■ 性科学界のオスカーを受賞した、初の日本人女性

開会式後半に関して特筆すべきは、池上千寿子氏 (ぶれいす東京代表) のゴールド・メダル (WAS 金賞) 受賞である。WAS 国際会議で発表される各賞のなかでも、生涯にわたる性科学への顕著な貢献を讃える「金賞」は、ある受賞者に言わせれば「性科学界のオスカー (アカデミー賞)」である。過去にかの有名なキンゼイやマスターズ & ジョンソン、カーケンダール、故・朝山新一氏などが受賞しており、今回の受賞者 5 名には、「G スポット」研究で世界的に著名なビバリー・ウィップル教授 (米) の名前もある。

残念ながら、池上氏は事情により渡航を中止せざるをえなくなったため、同じハワイ大学太平洋性と社会研究所でミルトン・ダイヤモンド教授に師事した「妹弟子」である私が当日の代理を務めさせてい

ただいた。

これまでも、2005年エイボン女性教育賞、2009年アルトマーク賞などを受賞している彼女の業績を改めて紹介する必要もないと思うが、今回の選考理由は、以下のように紹介された。「池上千寿子氏は、人間の性や性の健康について語ること、学ぶことの重要性を日本人に伝えてきた、まさにパイオニアである。(30冊を超える翻訳本を含む) 50冊以上の単共著を通じて、医学・科学コミュニティと一般社会をつなぎ、日本の性科学・性教育コミュニティと国際的コミュニティをつないできたのである。」

感激と興奮の授賞式の後、開会式最後を飾ったのは、性科学界の巨人の名を冠した「ジョン・マネー追悼記念講演」である。すでに予定終了時刻を1時間近く過ぎたところで、長旅の疲れと空腹感を募らせた聴衆の表情には陰しさが現れていたのだが、登壇したケヴィン・フェントン氏(CDCのHIVエイズ・ウイルス性肝炎・性感染症・結核予防局の責任者)は、そんな会場の空気をもろともせず、「米国における性の健康に対する公衆学的アプローチ」と題した見事な講演をおこなった。

■ 日本からの参加者と一般演題

冒頭でご紹介したように、日本からの参加登録者は18名(内1名は、欠席した池上千寿子氏)だった。日本性科学連合(JFS)が主催した団体ツアーは、事前申し込みが10名にも満たなかったために中止となったが、私たちが事前に把握していた人数をはるかに上回る参加者に現地でお会いすることができたことは、嬉しい驚きだった。

以下に発表演題をご紹介します。英語のタイトルを意識したのだが、本人にはニュアンスの違いなどを確認していないことをあらかじめお断りしておく。

- 金賞受賞講演「HIVと性の健康：日本からのメッセージ」(おれいす東京・池上千寿子)
- シンポジウム口演「日本のトランスジェンダー現象に対する健康ベース・アプローチの罫」(大阪府立大学・東優子) ※シンポジウム「トランスジェンダー／トランスセクシュアリズムの心理・社会・文化的側面」
- シンポジウム口演「日本の文化的・臨床的文脈に



トランスジェンダーに関するシンポジウムの演者たち：左から、ヴァレリオ (伊)、東 (日)、メディコ (スイス)、ベネスタッド (ノルウェー)

みる乳がん術後のセクシュアリティと親密な関係性」(獨協医科大学・高橋都) ※シンポジウム「乳がん後のセクシュアリティと親密な関係性」

以下はすべてポスター発表。

- 「婦人科がんの患者のセクシュアリティに関する看護師への介入効果」(鳥取大学医学部附属病院・山崎かおり、他2名)
- 「日本のスポーツ協会におけるジェンダー問題の現状に関する量的調査」(東京大学総合文化研究科博士課程・正岡美麻、他2名)
- 「配偶者を亡くした高齢男性とアイデンティティ」(大阪府立大学大学院人間科学研究科博士後期課程・中原由望子)
- 「妊娠期の性交頻度と分娩後のセックスレス」(神奈川県立汐見台病院・早乙女智子)
- 「10代におけるデートDV経験と健康被害」(大阪大学・山本ベバリー・アン)
- 「家族計画に関する日本人夫婦の知識と現実」(大分県立看護科学大学・林猪都子、他4名)
- 「妊娠期の性的関係に関する妊産婦雑誌の掲載情報」(大分県立看護科学大学・猪俣理恵、他2名)
- 「性的態度に関する医学的アドバイス：2010年に刊行された人気妊産婦雑誌の分析」(大分県立看護科学大学・乾つぶら、他2名)

なお、上記を含め、本大会で発表された演題の抄録はすべて、国際性医学学会の公式ジャーナルであるThe Journal of Sexual Medicine (Vol.8) に収録されている(オンラインで購入可能)。



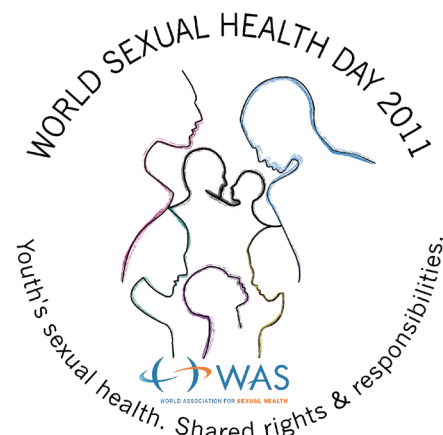
日本からの参加者：右から、本橋、高橋、飯藤、大川、早乙女、正岡、中原、東（敬称略）

■ 新しい出会いと別れ

本大会では、一般演題の他にも、各国の著名な研究者によるリレー講演 Meet the Expert（専門家と会おう）といったプログラムが、毎朝8時にプログラムされており、普段は学術雑誌やネット情報でしか知ることのできない研究者・実践家と交流する機会に恵まれた。こうした交流は、国際会議の醍醐味であり、とくにアジアやアフリカ、南米、東欧州など、英語で書かれた文献が少ない地域の情報を得るのに有効である。直接対話することで、文献では把握できない、問題の背景を知ることができる。

そういう意味でも、ガラ・ディナー（祝宴）がキャンセルになったことは非常に残念だったが、「万事、塞翁が馬」とはよくいったものがある。参加者らは各々、小グループにわかれてパブなどに繰り出し、逆にじっくり交流する時間が持てたという声を聞いた。私自身も、オーストラリアの団体に合流し、カーティン大学で開講されているセクシュアリティ教育課程の充実ぶりについて話を聞くことができた。

旧友との再会や新しい仲間との出会いがある一方で、本大会では突然の悲しい別れもあった。初日のWAS役員会議が終了した直後、元WAS会長マーク・ガネムが、開会式を前に心臓発作で急死したのである。性の健康に関するユネスコとの共同プロジェクトを立ち上げたばかりで、役員会議で熱弁をふるったのが彼の最期となった。フランスから家族が駆けつけるのを待ち、性科学界の旧友たちが見守るなかで、ユダヤ教式の追悼式が厳かに執り行われた。



世界セクシュアル・ヘルスデー（9月4日）のロゴ

■ 来年は、AOCS 松江大会

WAS 国際会議の第21回（2013年）は、ブラジルのリオ・デジャネイロ、第22回（2015年）はシンガポールで開催されることが決定した。隔年開講のため、来年はアジア・オセアニア性科学連合（AOFS）が主催する国際会議（AOCS）が島根県松江市で開催される。紙幅の都合で、グラスゴー大会の全貌をうまくお伝えすることができなかったが、少しでも興味関心をもたれた方がひとりでも多く、松江に足を運んでくださることを願ってやまない。

■ 世界性の健康デー

最後にもう一つ、WASの新しい取り組みをご紹介しておきたい。「世界における性の健康と性の権利の推進」をミッションとするWASでは、昨年（2010年）から9月4日を「世界性の健康デー」に定め、世界各国でのキャンペーンを実施している。2011年のテーマは「若者の性：権利と責任を分かち合おう」（Youth's Sexual Health: Shared Rights and Responsibilities）。

国内でも、横浜でトークライブ「愛とこれからの生と性～ちゃんと知っておきたい、オトコとオンナの事情～」（場所：横浜市社会福祉センターホール）、大阪で公開フォーラム「学校のなかの性的マイノリティ～教育現場における排除と包摂～」（場所：関西学院大学大阪梅田キャンパス）が、それぞれ9月4日13時から同時開催される。詳細は、本紙9ページ「JASE information」をご参照いただきたい。

ノルウェー事件と通底する
2つの要素

ニューヨーク州で同性婚を合法とする法律が施行された7月24日は、一方でまだ2日前に起きたばかりのノルウェーの爆破テロと銃撃テロの余波が続いて、ニュースもおめでたい話と悲惨な事件とさらには米国債のデフォルト（債務不履行）問題とが入れ替わり立ち替わり登場するめまぐるしい1日でした。

ところで当初、多くのニュース・メディアとコメンテーターたちはノルウェーの爆破・銃撃事件をイスラム教過激派によるテロだと推測で報じていました。英大衆紙ザ・サンは一面で「アルカイダの大虐殺：ノルウェーの9/11」と見出しを打ち、米国でもウォール・ストリート・ジャーナルは最初「ノルウェーは欧米の規範に忠実であったから標的にされた」として犯行を「ジハーディスト（聖戦主義者）たち」によるものと推断したのです。

でも結局イスラム教徒は関与していませんでした。関与したのは、キリスト教原理主義者でした。

ところがそうわかると、メディアは今度は一斉に「テロ」という言葉を使うのをやめました。そして犯人を、異様な反イスラム主義と反移民思想を持つ「極右の国粋主義者」と説明し始めました。さらには「狂人」だとか「過激派」だとかと呼び始めています。

英語圏のツイッターで、この件を次のようにつぶやいた人がいます。「イスラム教原理主義者がテロを行えば世界中のイスラム教徒が全員何らかの責任があるかのように見なされ糾弾されるのに、キリスト教原理主義者の白人が大量に人を殺しても他のキリスト教徒たちは誰に責められるでもなくへっちゃらだ」

このテロ事件がニューヨーク州での同性婚開始という慶事に影を落としたのは、私にはとても象徴的なことだと思います。理由は2つ。これは「マジョリティが犯罪をなすとその罪は個人に帰属し、マイノリティが犯罪をなすとその罪は集団全体に帰属すると見なさ

れる」という傾向に共通して当てはまる事象だからです。片や欧米におけるキリスト教とイスラム教との関係、片や世界中の性的多数派と少数派の関係。

たとえばゲイの人が猥褻行為やポルノ絡みで逮捕されたとすると「ああ、やっぱりゲイは変態だ」となり、殺人でも犯そうものなら「やっぱりホモの連中は異常だ」となります。対して多数派である異性愛者の痴漢や殺人者はべつにその犯罪を取り立てて性的指向と絡めて論難されることはありません。単に単独の、よくある犯罪者の一例として忘れ去られるだけです。

もう1つ、同性婚開始のニュースではこれに反対する人たちのデモや意見も紹介されていました。反同性婚団体の代表者の1人は、同性婚を違法なものに戻すと宣言し、「私たちには可能だ。ニューヨーク州はこれから血みどろの混乱状態（Bloody Mess）になるだろう」と恫喝していました。

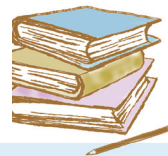
その彼女たちの団体はキリスト教の団体です。彼女の言う「血みどろの混乱」と、ノルウェーの銃撃犯の他者を拒絶するあの血みどろの銃撃戦とは、違うものなのでしょうか。あの日、同性婚開始のニュースの直後にノルウェーの犯人の背景を説明しながら、キャスターたちがこのキリスト教原理主義の2人が、じつは深くどこかでつながっているのだということを誰ひとりとして指摘しなかったのが私には不思議でした。

片や1500ページものマニフェストで移民とイスラム教徒への宣戦布告をした犯罪者、片やニューヨークが血みどろになると予言する団体代表。もちろん彼らの残酷はキリスト教者たちの全体に帰属するものではないと承知してはいます。しかし、この2人が、攻撃対象とする集団全体にテロル（恐怖）を植え付けようと努めていることは明確です。その意味でこの2人は等しくテロリストであり、キリストの名の下に憎悪を広めている…キリストは迷惑しているのでしょうか？ それとも、彼にも責任の一端はあるのでしょうか？

宗教自体の持つ先験的な罪業を考えています。

きたまるゆうじ ニューヨーク在住（18年）ジャーナリスト／作家／元・中日新聞（東京新聞）ニューヨーク支局長。

「ありのままのわたしを生きる」ために



第5回

第4のグループへ

土肥いつき

京都の公立高校教員。24時間一人パレード状態のMtFトランスジェンダー。趣味の交流会運営で右往左往する日々を送っている。

7月のある暑い朝、校門の立ち番中の他愛もない会話。「暑いなあ」「暑いですねえ」「梅雨があけたら夏休みってことにしたらええのに」「ほんまですわ。じゃあ夏休みの終わりは?」「…、蟬が鳴きやんだら」「ほな、最後の一匹になったら、鳴きやまないように必死で面倒みなあきませんね（笑）。

最近授業時数確保のかけ声のもと、どこの学校でも夏休みはどんどん短くなっています。しかし、地球温暖化や節電と言われているのに、夏休みを短くして、そのリカバリーのためにクーラーを教室に設置するというのは、どこかが間違っている気がします。

閑話休題。

中学校時代は、今振り返るとあまり楽しかったとは言えないように思います。時代はちょうど「スクールウォーズ」の頃です。わたしが行った中学校はまだおとなしい方でしたが、それでも髪をリーゼントにして、短ラン・ボンタンを着た、いわゆる「不良」と呼ばれる生徒たちがそこそこの人数いました。

中学校のクラスは大きくは3つのグループにわかれます。ひとつは「不良グループ」。もうひとつは不良が手出しをしない「主流派のグループ」。最後は「不良に狙われるグループ」です。もちろんわたしは最後のグループにいました。もっとも、ターゲットはさまざまに変わるので、例えば実際にカツアゲにあうなどということは、ほとんどありませんでしたが…。

1年生の冬、あるイジメにありました。移動教室から帰ってきたとき、不良グループが寄ってきて「この服を着ろ」と言いました。それは、同じクラスの女の子のコートでした。そして「服を着て、持ち主の子に向かって手を振れ」と言うのです。もちろん逆らうわけにいけないので、言うとおりにしました。案の定、持ち主の女の子は真っ赤な顔で怒って、わたしから服を剥ぎとっていきました。その時のわたしは、あいまいな笑顔でいたような記憶があります。と言うのは、イジメられたしんどさとは別に、「ほんものの女の子の服が着られる」という、密かな喜びがあったからで

す。でも、このことは誰にも言えない秘密でした。

やがて2年生になったわたしは、自分の場所を見つけました。それは「写真部」でした。写真部には、例えば「学校行事の時にカメラを持ってくるのもいい」など、たくさんの「特権」がありました。なかでももっとも大きな特権は、「暗室を持っている」ことでした。ひとたび暗室の中に入って、外に「現像中」を示すランプをつけてしまえば、たとえ先生であってもそこに入ってくることはできません。暗室の中の照明は暗く赤い電球ひとつだけです。現像液を満たしたバットの中の印画紙からゆっくりと自分が撮った写真が浮かびあがってくる風景は、まるで魔法を見るような気持ちにさせてくれました。

わたしが撮っていたのは、主に鉄道写真でした。鉄道写真を撮るために、中学生であるにもかかわらずあちこちに行きました。例えば、冬の伊吹山をバックに特急の写真を撮るために米原まで行きました。あるいは、鉄橋の上のブルートレインを撮るために熱海まで行ったこともあります。さらには、最後の蒸気機関車を撮るために北海道にも行きました。もちろん旅費の節約のために、乗るのはほとんどが普通でした。関東に行く時は、夜行列車です。それがかつては「人民列車」と呼ばれ、現在の「MLながら」であることを知るのには、後のことです。

自分で時刻表を調べ、鉄道雑誌に載っているダイヤグラムを読み、機材を担いで、歩いてベストポジションに移動しました。自分の行動範囲の広さは、やがて「自分への自信」へとつながっていきました。その自信は内側からにじみ出てくるものなののでしょうか。3年になる頃には、わたしは不良ともイジメとも主流派とも無縁な「第4のグループ」にいるようになりました。「第4のグループ」のメンバーは、勉強のできる生徒たちで、自分たちの進路についてもしっかりと考えていました。やがてわたしもイジメる／イジメられるといった殺伐とした世界から逃げるために、私立高校への進学を考えるようになりました。

BOOK GUIDE

今月のブックガイド

人間関係を円滑にする知恵

知人の若い女性が愚痴っていた。「友情って難しい！恋愛だったらパターンが決まっていて、それに沿ってやっていけばなんとかなるのに、こと友だち関係となると、相手との距離感がなかなかつかめない」

たしかに、恋愛というのは、どんなに当事者には困難に感じられても、よくよく観察してみると、いくつかの類型に分けられるゲームになっている。それに比べると友情は、これといった目的も、快樂も持たないままに、日常的に交わされるコミュニケーション。そして駆け引き。もしかしたら、こちらのほうが、恋愛などよりよほど難易度の高い関係性かもしれない。

菅野仁『友だち幻想』は、他人とつながることが「自然」ではなくなった時代の友情論である。著者は「一人でも生きていける社会だからこそ〈つながり〉が難しい」と問題提起をする。たしかに、他者なしでも生きていけそうなのに、誰かを必要としている点において、私たちの分裂がある。人間にとっては、社会的な利害などとは別に、他者によって「承認」されることや、交流そのものから喜びを汲み上げることが、不可欠な精神活動なのだ。

けれど、地域社会の共同体性が解体してしまった現在では、かつてのようにムラ的な人間関係も当てにできず、背景も嗜好も異なる他者と付き合っていかなければならない。そうすると、無理やり相手に合わせることで心身が疲れてしまったり（同調圧力）、学校や会社で人間関係のストレスの捌け口を、「いじめ」などで解消するといった事象も生じてしまう。そこで、著者が主張するのは、「同質性を前提とする共同体の作法から、自覚的に脱却しなければならない」ということ。換言すると、「『気の合わない人と一緒にいる作法』ということを実際に考えなければならない」。

これは、人間はわかり合えるもの、だとか、努力す



友だち幻想

菅野 仁著
ちくまプライマリー新書
756 円（税込み）

ればみんなが一つになれる、といった幻想を捨てるべし、という意味でもある。まだかつてのように共同体が成立していた頃感覚を引きずっている人たちには、ちょっとドライすぎて納得し難いかもしれないが、わかり合える、という結論から出発してしまうと、互いに頑張りすぎて、それが結果として破局をもたらすことにもなりかねない。だとしたら、気が合わない場合は、少し距離を置いて付き合っていけばいい、というのが今日、人間関係を円滑にするための知恵なのだろう。

こういうことは、もっと広い社会で考えても同じことが言える。例えば、相容れない宗教を信じている人同士が、絶対にわかり合えるという前提に立って関係していくとしたら、どちらかが自分の宗教を放棄するか、あるいは互いに殺し合うことにもなりかねない。そういう悲惨な結末を招くよりは、無理に和合せず、仲が悪いもの同士がいかにか共存していくのか、その方法を考えることに専心したほうが、実質が得られるはずだ。

もはや、日本人ならわかり合える、という幻想に寄りかかることができない私たちの社会でも、そのような作法を発明し、学んでいくことでしか他者と共生していくのは容易ではない。著者が言いたいのは、そのためには先のような発想の転換をするしかないということ。

そして、具体的な処方箋が重要になってくる。本書のなかでは、言葉のマナーということが取り上げられている。例えば、「ムカつく」とか「うざい」といった表現は、「自分にとって少しでも異質だと感じたり、これは苦しい感じだなと思ったときに、すぐさま『おれは不快だ』と表現して、異質なものと折り合おうとする意欲を即座に遮断してしまう言葉」になる。だから、できれば相手に向かって使わないほうがいい。ルールの積み上げこそが肝要だ。

こういう表現のレベルから丁寧に考えていかないかぎり、前提を共有しない関係を積み上げていくことはできない。そのヒントを本書は与えてくれるだろう。

（作家・伏見憲明）

9/4 (日)
13:30~17:00

世界性の健康デー (WSHD) 公開フォーラム
文部科学省「大学生の就業力育成支援」事業／関西性教育研修セミナー 2011 夏

「学校のなかの性的マイノリティ」 ～教育現場における排除と包摂～

【内 容】

開会の挨拶『「世界性の健康デー」について』 東優子 (大阪府立大学人間社会学部)

講 演「若者の性的指向と健康問題：学校保健で見落とされがちな視点について」 日高庸晴 (宝塚大学看護学部)

事例報告 & ディスカッション コメンテーター：土肥いつき (京都府立高校)

9月4日は、世界性の健康デー (World Sexual Health Day) です。今年のテーマ「若者の性の健康：権利と責任のわかちあい」(Youth's Sexual Health: Shared Rights and Responsibilities) にあわせ、「学校のなかの性的マイノリティ：教育現場における排除と包摂」と題した公開フォーラムを企画しました。

講師の日高庸晴氏は、厚生労働省エイズ対策研究事業の一環として数多くの研究を実施しておられます。研究結果の一部は『ゲイ・バイセクシュアル男性の健康レポート』として刊行しており、当日は、マスコミにも取り上げられた「ゲイ・バイセクシュアル 6000 人調査 半数がいじめ被害」(朝日新聞 2007 年 9 月 9 日) などの調査結果に基づき、教育・保健医療・福祉・メンタルヘルスの専門家に對するさまざまな提言を行っていただきます。

事例報告のセッションでは、現役教師であり、セクシュアルマイノリティ教職員ネットワーク副代表の土肥いつき氏をコメンテーターに迎え、教育現場でどのような取り組みがなされているかについてご紹介しつつ、参加者のみなさんと活発な意見交換につなげたいと考えております。

【会 場】 関西学院大学大阪梅田キャンパス K.G. ハブスクエア 1004 室 ※開場／13:00 参加費／無料。
(大阪府大阪市北区茶屋町 19-19 アプローズタワー 10 階)

【主 催】 世界性の健康学会「世界性の健康デー」実行委員会
大阪府立大学「子育て教育系キャリア・コラボ力育成」
関西性教育研修セミナー実行委員会

【協 賛】 財団法人日本性教育協会

【問い合わせ先】

higashi@sw.osakafu-u.ac.jp (ご返事は必ずいたします。ただし携帯メールの場合、こちらからの返事が受信拒否されることがありますので、あらかじめご了承ください。)

9/4 (日)
11:00~16:00

世界性の健康デー (WSHD) 公開フォーラム・東京性教育研修セミナー 2011 夏
トークライブ「愛とこれからの生と性」
～ちゃんと知っておきたい、オトコとオンナの事情～

内 容 (11:00~13:00 展示・相談コーナー 13:00~16:00 トークライブ／Q&A・ディスカッション)

TALK LIVE「携帯メール相談からみた若者の性」 上村茂仁 (ウィメンズクリニックかみむら院長)

「男の正体・女の錯覚～愛という名の勘違い～」 西海美知代 (クラブ銀座ラクーネオーナー)

Q & A / ディスカッション 早乙女智子 (神奈川県立汐見台病院)、斉藤麻紀子 (Umi のいえ)。

会 場 横浜市社会福祉センターホール (JR 桜木町駅から徒歩 2 分)

定員・参加費・問い合わせ

参加費／一般 2,000 円、夫婦・カップル 2,000 円、大学生・専門学校生 500 円。 **定員**／200 名 (要事前申込)。 **対象**／R16 (子連れ OK)。

主 催／世界性の健康デー記念イベント実行委員会。 **協賛**／財団法人日本性教育協会、富士製薬工業株式会社。

問合せ先／いのち・こころ・からだ・くらしの学びあいの場～Umi のいえ～ TEL 045-324-8737 E-mail was@umi.lar.jp

以下の項目をご記入のうえ、上記メールアドレスにお申し込みください。①氏名 (ハンドルネーム可)、②年齢 (年代でも可)、③性別 (男・女・無回答)、④アンケート (①あなたの若気の至り～やらかしちゃった経験談、②性について聞きたいこと、困っていること、③デキる男、イける女とは?) (お申し込み後 3 日以内に返信致します。カップルでお申し込みの方はお 2 人分の情報をお書き下さい。皆様からいただいたご質問・コメントをもとに当日ディスカッションします。無記名にて当日配布の資料、HP、報告集などで引用させていただくこともございますのでご了承下さい。頂いた情報は本イベントの資料作成以外には利用いたしません。)